

初級学習者による紙芝居 – 発話と相互交渉力促進のための試み –

齊木ゆかり (東海大学)

日本語初級クラスを担当している筆者は、以下の事に気づいた。学習者は1) 教師の質問には答えるが、単語の羅列、単文である。2) あらかじめ文型や語彙を提示しても学習者同士の相互交渉が起こりにくい。ところが彼らの様子を観察すると、休み時間にクラスの学生と会話をしている学習者がいる。実に楽しそうに冗談を言って笑っている。使用言語は日本語である。しかし、休み時間が終わると自発的な発話が起こらなくなる。どうしたら休み時間の楽しそうな雰囲気での相互交渉が授業で作れるのだろうか。そこで、初級学習者が自発的に発話し相互交渉を始める活動を模索した。すると、学習者が作った物語が大きな役割を果たす事がわかった。特に視覚資料を使つての物語とその後の質疑応答活動で学習者同士の相互交渉が行なわれた。視覚教材とは、『みんなの日本語』の補助教材である絵カードである。『みんなの日本語』絵カードの一般的な使い方は語彙の導入や復習であるが、この絵カードを紙芝居用の木枠に差し込み、学習者は紙芝居の枠の後ろや横に立ち、自分が作った物語を披露した。つまり、1枚の絵を見せながら紙芝居をおこなったことになる。この手法は3種類に分ける事ができた。1番目は、学習者が絵カードを見せながら物語を発表し、発表した学習者自身が聞き手の学習者に質問をするという方法で、授業の初期におこなった。2番目は、学習者が自分で描いた絵を見せながら物語を発表し、発表者自身がクラスメートたちに物語に関する質問をするという方法で、聴衆はまず絵に注目し、集中力が高まった。3番目は、他の学習者が描いた絵を見せながら物語を発表し、クラスメートたちが発表者に質問をするという方法である。これらの手法の中で特に3番目の手法に学習者が興味を示した。特に絵を描いた学習者本人が興味を示し、発表者に質問をしていた。